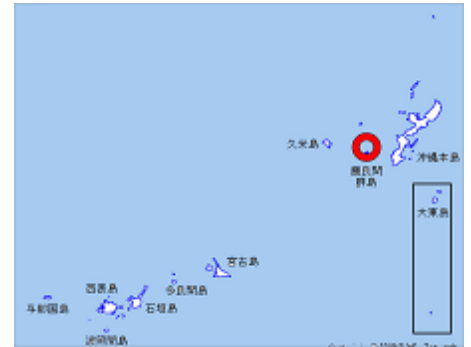


稲守信子さん

1924(大正13)年10月9日生まれ

民間人

戦地 渡嘉敷島



●1945(昭和20)年3月27日 渡嘉敷島に米軍上陸、28日“集団自決”がおきる(証言パネル前出)

●山中に入る

山に隠れている時に、アメリカ兵が斥候で4～5名見えるところにいるわけ。日本兵じゃないねと思って逃げようとしたら撃たれたけどね。お母さんは頭をやられて即死だったけどね。お姉さんはあの時まで歩けないからずっとおんぶして、弾撃たれたら瞬間的に歩けたのか、いなくなってるわけ。いざとなったら人は元気でますよ。

逃げいて上に行ったら日本の兵隊がいるわけ。そしたらこの人が「やまとんちゅう」(本土出身)だけど、乾パン食べながら、「みんなあっちに避難してるから、あっちに行きなさいね」って。行ったらあちは余計いっぱいの人が亡くなって。どこから撃たれたのか、日本兵が撃たれたのか、アメリカさんに撃たれたのか分からないけど、いっぱい。運命でもあるはずよ。うちなんか同じ所に一緒に立っても、当る人にしか当らんさあねえ。

あの時は早く死んだほうがいいしか思っていないから。みんな生きることより死んだほうがいい。いいねえ、先に死んだ人はいいねえ、しか考えないからね。

明日は自分の番、自分で決めてよ。だからたまたま山で会った日本の兵隊が、知ってる兵隊さんで、「お菓子も食べてみ。兵隊を信用しなさいよー、守ってあげるから」とお菓子渡されたけど、食べる気にもならんさね。小さい子にはあげて。兵隊でもいい人もいるの、「もう少し日本の兵隊信用しなさいよ」って、信用どころじゃないのに。みんな山に避難しに本部に行ったら追い返されて。民間人がいたら邪魔って、邪魔になるって言ったからね。

戦争終わってからも8月までずっと山の中だから。食いモノもない、何もなし。山にいる間は、日本の兵隊は、もう民間は追い出してでも食糧を取るという感じだから。

兵隊さんでもいい人と悪い人がいる。高橋さんという兵隊さんは、本当にあの人は生きて欲しかったわけ。だけど壕の中で機関銃でやられてね。本当にいい人だった。この人のためなら食べ物、自分たちの分けてあげるといぐらいにいい人だった。行くときに「おばあさんの仇取って来ようね」と言ったからね、その日に亡くなった。

戦争終わってから、友達2～3名で、遺骨をみんなはまとめて一箇所だけど、この兵隊さんの骨だけちゃんと取ってね、いつかは世の中が変わったら家族でもいたら訪ねてくるはずだからと言って保管してたけどね、こなかったさ。このままにしてはあれだから、「白玉之塔」に一緒にしようねと。

村中の人が出て、山で亡くなった人をみんな取って「白玉之塔」に入れた。私が取ったのは、朝鮮人(軍夫)じゃないかと思ったけどね。縛られてるよ(手首の動作)、縄もしてるまま埋められているのを、うちらは取ったけどね。

●1945(昭和20)年8月15日 下山

戦争中に先に捕虜されてる人たちなんか、見つけられたら大変だから。こんな人たちが日本兵に何名か殺されてるさ。残ってる家には、先に捕虜になった伊江島の人(連れて来られて)入ったからね。伊江島の人(戦争が終わってる、うちんかが川の側に避難していたら、伊江島の男か、女の方もいたけど通って、「戦争終わってますよ」と言ってるのを日本の兵隊に見つけられて連れて行かれてるわけ。連れて行ってその日にやられてるさね。

戦争が終わった日に山にビラ撒かれて、その日に引率して降りて、最後に降りて来たけどね。相当いましたよ。

(8月15日まで下りなかったのは?)日本の兵隊が一番恐いの、すぐやられるの。アメリカ兵隊よりは日本の兵隊にやられるから。あの時は日本の兵隊も敵、国を守るというよりは殺されるから。見つけ次第殺される。

●慰安婦

隣に洋裁している友達がいたから、慰安婦が着物を直したり縫い物させに来るから、あいちゃんと、はるえ、みっちゃん。この3名は付き合いはあったわけさ。友達ではないけどたまに会って。はるえは子供がいると言ってたからね。大変ではあったはずよ。

炊事に行った日本兵がいたけど、あっちに行くカードがあったわけよ、もう2～3人分までこのカード貰ってよ。1日何遍と行きよったからさ。よく生きてるねと思いつた。

2人はこっちで亡くなってるよ、戦争で。どこで亡くなったか分からんけど。山の上に朝鮮の碑がある、だけど掃除もなにもしないさね。

(取材日:2015年2月10日)